

## 今月のHOTニュース 自転車事故に注意!

自転車は誰もが気軽に乗れる便利な乗り物です。しかしその気軽さの半面、交通ルールやマナーを守らず事故を起こすケースがしばしば見られます。交通ルールとマナーを守って、安全運転を心がけましょう。

### 自転車事故の実態

件数、死傷者数は10年前の約0.9倍 死傷者の4割は若者と子ども

平成22年の自転車乗用中の交通事故件数は15万1,626件。10年前の平成12年の0.87倍となっています。しかし、近年は交通事故全体の件数が減少している中で、全体に占める自転車事故の割合は漸増しており、平成22年には20.9%と4年続けて2割を超えています。平成22年の自転車乗用中による死傷者数は15万1,631人。交通事故全体の死傷者に占める割合は16.8%と高い数値を示しています。

また、死傷者の4割は、24歳以下の若者と子どもで占められています。

### 安全ルールを守る

- 1. 二人乗りはしない**  
自転車の二人乗りは、バランスを崩しやすく非常に危険です。  
※ただし幼児を乗せる場合等は、例外的に認められています。
- 2. 道路は並んで走らない**  
自転車が2台以上並んで走るとは禁止されています。ただし、「並進可」の標識のある場所では、2台まで並進できます。
- 3. 飲酒運転はしない**  
お酒を飲んで運転することは、自転車でも非常に危険です。道路交通法上で自動車の場合と同じく、禁止されています。飲酒運転は絶対にやめましょう。
- 4. 夜間は必ずライトを点灯する**  
無灯火は、他から自転車が見えないので、非常に危険です。夜間は必ずライトを点灯し、明るい目立つ色の服装や反射材の活用を心がけましょう。
- 5. 信号を正しく守る**  
歩行者用信号機の青信号の点滅は黄色信号と同じです。次の青信号になるまで待ちましょう。
- 6. 一時停止と安全確認をしっかりと行う**  
一時停止標識のある場所や大通りに出るとき、踏切などでは、必ず止まって左右の安全確認をしましょう。



### 安全のため、ここにも注意!

#### ■からだに合った自転車に乗る

サドルにまたがったときに両足先が軽く地面につき、上体が少し前傾姿勢になるくらいに調整しましょう。

#### ■荷物はハンドルにかけないで荷台にしっかり固定する

ハンドルに荷物を下げたりするのは危険です。荷物は荷台に載せしっかり固定しましょう。

#### ■傘さし運転も危険

傘さしによる片手運転やげた・サンダルばきの運転はバランスを崩しやすく危険です。

#### ■携帯電話、ヘッドホンの使用はしない

携帯電話やヘッドホン使用での運転は、注意力が散漫になったり、外部の音が聞こえづらくなったりするため大変危険です。絶対にやめましょう。

#### ■左折する自動車に注意する

左折する自動車のドライバーから自転車が見えない場合が多くあります。交差点を直進するときは左折車に十分注意しましょう。



### もしも事故を起こしてしまったら

#### ①ケガ人の救護

ケガ人がいる場合は、ケガ人の手当が最優先です。まず救急車を呼びましょう。

#### ②道路上の危険防止

二次災害を防止するため、路肩や歩道など安全な場所に自転車を移動させましょう。

#### ③警察への連絡

現場をよく確認し、落ち着いて警察に連絡しましょう。警察への届出がないと、「交通事故証明書」が発行されません。

#### ④事故状況の確認

事故の相手方の名前、住所、連絡先などを確認し、簡単な事故状況メモをつくりましょう。

#### ⑤損害保険会社への連絡

事故の状況をただちに損害保険会社または代理店に連絡してください。

出典：社団法人 日本損害保険協会発行「知っていますか？自転車の事故」

～各種損害保険の詳細は裏面取扱代理店までお問い合わせください。～

# 交通安全のポイント

凍結路面や積雪路面は滑りやすく、停止距離が長くなるうえに、ブレーキ操作やハンドル操作時にスリップするおそれがあります。また、降雪や雪煙で視界も悪くなり危険の発見が遅れます。そこで今回は、凍結路や積雪・降雪路の走行について考えてみましょう。

## ■凍結路の危険性と安全走行のポイント

### 凍結路面は発見が遅れやすい

凍結路面は積雪路面よりも滑りやすく、ブレーキ操作やハンドル操作のわずかなミスでスリップする危険があります。しかも、凍結路面は積雪路と違って見分けにくいために発見が遅れがちになり、スリップして初めて凍結に気づくというケースもあります。路面の状態によく目を配り、凍結路面を早めに発見するよう努めましょう。

### こんな場所が凍結しやすい

次の場所は、特に凍結しやすいといわれていますから、スピードを落とす、前車との車間距離を長くするなど慎重な運転を心がけましょう。

- ・橋の上
- ・トンネルの出入口
- ・交差点の手前やカーブの手前などのブレーキをよく踏むところ
- ・切り通し(山や丘陵などの間を切り開いて通した道)
- ・山間部などの日陰になっているところ

また、上記以外の場所でも、気温の下がる深夜から明け方にかけては、路面が凍結しているおそれがありますから注意しましょう。

### トンネル内でも凍結していることがある

トンネルの中は雨も雪も降らないため、路面が凍結することはないように思えますが、走行車両の落とした雪のために路面が凍結していることがあります。高速道路や山間部のトンネルを走行するときは、路面の状態に注意を払いましょう。また、トンネルの入口は凍結していなくても出口は凍結していることがありますから、その点にも注意が必要です。

## ■積雪・降雪路の危険性と安全走行のポイント

### 降雪時でなくても視界が悪くなることもある

降雪時は、前方の視界が悪くなるだけでなく、サイドミラーやリアウインドーにも雪が付着するために後方や側方の視界も悪くなります。こまめにウインドーガラスやミラーの雪を取り除きましょう。また、雪が降っていない場合でも、周囲に積もっている雪が強風にあおられて舞い上がり(これを「地吹雪」といいます)、前方の視界がさえぎられたり、対向してくる大型車が巻き上げる雪煙によって視界がさえぎられることがあります。地吹雪が予想される場所や、大型車が接近してきたときは、あらかじめワイパーを作動させるなどして視界の確保に努めましょう。

### 路面標示が見えなくなる

積雪路では、センターラインや一時停止線などの路面標示が見えなくなるだけでなく、車道と路肩や側溝の見分けもつかなくなります。そのため特にカーブでは対向車線にはみ出して対向車と衝突したり、左側に寄り過ぎて側溝に落ちてしまう危険がありますから、注意しましょう。

### 強いブレーキはスリップをまねく

積雪路や降雪路は停止距離が長くなります。そのため、前方の交差点が赤信号の場合や、見通しの悪い交差点に接近したときなどに減速のタイミングが遅れると、交差点の手前で停止できずに交差点内に進入したり、信号待ちで停止している車に追突する危険があります。このようなときに、停止しようとしてブレーキを強く踏むと、スリップをまねく危険がありますから、赤信号の交差点や「止まれ」の標識のある交差点に接近するときは、あらかじめ減速して進行するとともに、ブレーキはソフトに踏み、徐々に停止するようにしましょう。

### タイヤチェーンの装着は早めに安全な場所で行いましょう

冬季の走行では、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤを着用していてもチェーンは必需品です。車の中に装備されているか、破損していないかなどを必ずチェックしましょう。また、「チェーン装着」の指示が出されたときや、対向車がチェーンを装着しているときなどは、早めにチェーンを装着する必要がありますが、視界の悪い降雪時に路肩に停止して装着作業をすると、後続車から見落とされる危険がありますから、チェーン脱着場や待避所、サービスエリアなど安全な場所で作業を行いましょう。



【取扱代理店】

【住所】

TEL :

FAX :